



令和6年度

福島県小学生バレーボール連盟

審判研修会

日時 令和 6年 4月29 日(月)

時間 9:00～12:00

場所 二本松市文化センター体育室

福島県小学生バレーボール連盟審判規則委員会

## 令和6年度 日本小学生バレーボール連盟

### 審判委員会 活動方針

1. 審判員一人ひとりがコンプライアンスへの意識向上を図り、安全で安心なバレーボール環境の構築に努める。暴言・暴力・差別の未然防止に取り組む。
2. 6人制競技規則を熟知し、小学生競技規則への理解を図り、正しいルールへの取り扱いと安定した判定基準づくりに取り組む。
3. 指導者を対象にルールやその取り扱いについての周知・徹底を図り、ルール遵守の精神を醸成する。また、選手には、ラインジャッジ等の活動を通して、ルールへの関心を育み、フェアプレーの啓発に繋げていく。
4. 協会との連携を図りながら審判資格取得に向けた取り組みを計画的・継続的に推進し、若手審判員の育成に努める。併せて、子育て世代や次世代レフェリーが活躍できる環境の整備に努める。
5. グリーンカードを継続的に活用し、フェアプレーの推進に努める。
6. Thank you プレーヤー ・ Thank you スタッフ ・ Thank you フェアプレー

日本小学生バレーボール連盟  
令和6年度全国競技・審判委員長合同研修会資料

○小学生バレーボール大会における競技取り扱いについての共通理解

1. 他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認について  
資料「他の都道府県在住選手に関する新年度移籍登録選手の確認方法について」  
資料「他の都道府県在住の新年度移籍登録選手一覧表」
2. ユニフォームについて
  - ①ユニフォーム規程  
選手番号についてはルールブック・競技要項の両方に記載されている。  
都道府県名の大きさと位置 チームネームより小さい（高さ） 袖か襟下
  - ②混合の男女判別  
ソックスの色や長さ → ソックスの色（長さだけでは判別しにくい）  
ハチマキ → ×（ゲーム中にとれたり、はずしたりすることがある）  
※審判委員が一目で判別できることが大前提
  - ③ウエア等公認制度について
  - ④ベンチスタッフの服装  
シャツのイン・アウトについてはノーコントロール
3. ベンチへの持ち込み物について
  - ①飲料水の水筒 → ペットボトルは不可だが、スクイズボトルや吸引式の  
ボトルでなくてもワンタッチ式の蓋つき水筒であれば  
問題ない。ベンチスタッフも同様
  - ②キャンプカート → 安全面、屋外の汚れを入れない観点から使用禁止
  - ③スマートウォッチ → 時計としての使用は認める。（通信機器やカメラとしての使用禁止）
4. テクニカルタイムアウトについて  
選手の健康管理を考慮し、以下の通りに適用する。
  - ①テクニカルタイムアウトを2回適用する場合の取り扱い  
第1、第2セットでは、リードしているチームが7点と14点に達した時、第3セットはリードしているチームが8点に達した時、チェンジコート後に適用する。デュースが続く場合、1～2セットは両チームが25点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。また、3セット目は両チームが21点に達したときに適用し、その後は両チームが7点ずつ積み重ねた段階で適用する。
  - ②通常のテクニカルタイムアウト1回でデュースが続く場合の取り扱い  
第1、第2セットでは、両チームが31点に達したときに適用し、その後は10点ずつ積み重ねた段階で適用する。3セット目は上記と同様とする。

5. 試合前後のあいさつについて→コロナ禍前に戻す

選手 ネットをはさんで握手

監督 試合後は審判員と握手

6. 試合間のチームの入れ替えについて

資料「審判委員とコート委員の連携と役割分担」

7. 試合中の応援団のマナー違反への対応

①フラッシュ撮影や応援方法に問題があった場合

コート委員が応援団に指導し止める。競技責任者に報告する。

②判定に対するクレームや相手チームへの暴言・威嚇等があった場合

どちらのチームの応援なのか、コート委員が監督に確認する。コート委員は本部に連絡する。レフェリーが気づいた場合は、セカンドレフェリーが監督に確認し、コート委員に伝える。

8. 試合中、選手が怪我をした場合の対応

審判員はゲームを止める。セカンドレフェリーは選手の状態を確認し、監督に報告する。

判断は監督に委ねる。監督の対応によっては、コート委員は救護員を呼ぶ。その時に、救護員に選手の状態を伝える。怪我の処置はベンチ後方など、危なくない場所で行う。

審判は試合を再開させる。

9. 試合中、災害が発生した場合の対応

ゲームを中断し、子どもたちの命を守る行動を最優先する

大会実行委員会が作成する大会危機管理マニュアル（大会役員用）に則り対応する

※セカンドレフェリーは、中断時刻をスコアシートに記入しておく。

10. 2024年6人制ルールの取り扱い

タイムアウトは30秒間であるが、選手は、30秒を待たずにコートに戻ってもよい。ただし、タイムアウトの時間が短くなることはない。

上記については、小学生も同じ取り扱いとする。これは正規の試合中断（作戦上）のタイムアウトの取り扱いである。テクニカルタイムアウトについては選手の健康と安全に配慮したタイムアウトであることから、選手は30秒間コート外に出て、給水又は休息する。モップかけは、選手（子ども）は行わない。

### 最終判定について

1. ラリー終了の吹笛をしたときは、自らの判定を頭に置いてセカンド、ラインジャッジを確認し責任を持って(説明できるよう)最終判定を行う。
2. ファースト・セカンドレフェリーは、確実に確認できた反則のみを吹笛する。
3. ファーストレフェリーは、最終判定をした後にチーム又はセカンドからのアピールで判定が変わったり、ノーカントにしたりすることがあってはならない。

### ハンドリング基準について

1. バレーボールのハンドリング基準は同じであることを頭に起き、大会の基準が同じになるように審判員が認識を合わせることが大切である。
2. 割り当てられた試合の基準は両チーム一定にすること。
3. 疑わしきは吹笛しない。
4. 誰が見ても、どこから見ても、反則のプレーは確実に吹笛できるハンドリング基準の確立が必要。
5. セカンドはファーストレフェリーから見えないプレーについて補佐をする。

### サービス許可の吹笛のタイミング

1. ラリー終了から次のサービス許可の吹笛までの間に、確認すべきことをルーティン化する。
2. 得点が正しく表示されているかを確認する。
3. サービス許可の条件は、両チームの選手がプレーをする準備ができ、正しいサーバーがボールを保持していることである。
4. 両チームの監督からタイムアウトの要求、両チームから選手交代の要求がないことを確認し、サービス許可の吹笛をする。

### 独自の取り扱いについて(基本的な考え方)

1. 選手(小学生)への教育的指導は、よし悪しを十分に正しく判断できない小学生に、ルールでは反則になることを伝え、行為を正しくするため
2. グリーンカードは、フェアプレーの精神を養うために活用する。試合中・大会中において全ての参加者がフェアであり、問題を起こさない又は伸展させないために考え、行動した人に出される。

6 人制 審判実技マニュアル  
2024年2月23日  
公益財団法人日本バレーボール協会  
審判規則委員会指導部

上記資料からの抜粋

プロトコール

⑤両チームのラインアップをスコアラーがスコアシートに記入し終わったら、チームはラインアップを訂正することはできない。しかしながら、提出した後でそのセットが始まる前に、スターティングラインアップの選手が負傷した場合に限り、監督がファーストレフェリーに申し出て、確認後変更することが可能である。この場合、変更できるのは負傷した選手のポジションのみである。

遅延の制裁

⑥正規の試合中断の要求に関して、ディレイウオーニングが適用された場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。(けがや病気による選手交代を除いて)

吹笛

②サービスのホイッスルと同時か、あるいはその後の中断の要求の際、もしもセカンドレフェリーがホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。

オーバーネット

④相手空間内で、相手アタックヒット前にブロッカーがボールに触れた場合が反則となる。アタックヒットと同時にブロックの手が触れても反則でない。  
⑤セッターのトスアップやアタックプレーが十分に可能であるボールに対して、その前、または同時にブロックすることは反則である。特にセッターのトスアップをブロッキングするオーバーネットの見逃しに注意する。ただし、セッターのプレーが明らかにアタックの場合は、ブロックによるボールへの接触が、同時であっても反則ではない。

パンケーキ

①ファーストレフェリーは身体を大きく動かすことなく視線を下げて見る。確認できないときには、セカンドレフェリー、ラインジャッジを確認してからホイッスルすべきである。